



9 10 1 2 JAPAN 3 4 5 6 7 8

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

四

此卷之首有元人題詩云
「漢室中興舊武侯，一書猶足破強胡。
若非急急如電火，誰信平生不讀書。」
蓋其子瞻所傳，故不遺也。

卷之三

卷之三

天照大神宮

計、討、雖、爲、眼、前、利、潤、以、當、神、明、罰、
正、直、雖、非、一、且、依、怙、終、蒙、日、月、憐、

八幡大菩薩

春日大明神

雖ま曳け千日せんじつ注連ちゆれん不到めで秋あき見家みや
雖ま爲な重眼じゆがん深厚ふかひ可こ赴慈悲室じひしつ

丹生郡吉
川村田東
井辯一郎

- 一 御詫宣起之事 九 天照皇太神宮之事
- 二 末世御詫宣人不詫事 十 天照太神御詫宣事
- 三 上代御詫宣神變事 十一 八幡大菩薩事
- 四 天照太神國請來事 十二 山城國鳩峯勸請事
- 五 内宮御鎮座之事
- 六 外宮御鎮座之事
- 七 三社詫宣題号之事
- 八 諸神中三神詫宣事
- 九 大和國三笠山勸請事
- 十 四 春日大明神事
- 十一 十三 八幡御詫言事
- 十二 十五 大和國三笠山勸請事
- 十三 十六 春日御詫言事

三社詫宣鈔

一 詫宣起之事

今しげ三社の詫宣ひおろり、正應年中大和國あくべ
ゑ。東大寺の東南院。聖珍親王の御時て、いせん乃
池水。お天照太神。八幡大菩薩。春日大明神。三社の詫
宣の文字わきづく。わくもきづく。は東南院池
の事。そのうち大蛇とす。住居の人。年を
あくべ。こふ醍醐寺の聖寶。師。あくべ。こく
ふくらむ。す。あくべ。鬼魅。す。聖寶。とあくべ。
あくべ。事。たびくうりどり。聖寶。ちくれ。とあくべ。

ありて聖寶。義とのまぢか。御ひりて大蛇。うなづく。お乃
かりて寶。うしも。ゆうか。ひかる。寶。ねじり。さあそ。義とん。余
蛇。うらうつ。とき。おもひ。は。是と。蛇。と。うつ。まぢか。お大
蛇。うらうひ。う。び。まぢか。それから。聖寶。ハ。元興寺
の願曉法師。小。ま。ご。ひ。て。三論宗。と。あ。い。講。や。と。も。あ。
あ。う。とり。あ。四。鬼。毒。蛇。け。け。おも。し。あ。え。ば。を。の
い。け。ゆ。こ。も。く。に。大。般。石。わ。り。是。ゆ。き。聖。寶。た。ま。下。り。せ。か.
ふ。あ。い。ま。そ。今。あ。り。人。力。を。も。う。こ。す。ゆ。く。に。ま。と。ふ
る。あ。ま。あ。う。け。ゆ。り。聖。珍。親。王。き。の。く。の。下。舍。羣。人。元
十六代。休。見。院。の。印。字。う。あ。ア。ト。あ。り。正。應。年。中。佛。詫。宣。九
あ。ト。う。今。慶。安。年。中。ま。で。ハ。の。あ。い。ご。三。百。五。十。余。年
も。う。ち。あ。り。う。ま。ち。う。微。詫。宣。あ。り。お。禁。天下。と。ぐ。く。
を。う。ち。り。者。あ。り。一。說。よ。日本。神。國。ア。唐。土。天
竺。あ。も。と。言。え。と。お。金。輪。今。ぎ。の。國。あ。り。上。代。下。下。う。も。す。
せ。う。づ。う。西。翁。と。お。す。と。う。と。お。じ。と。ゆ。ぶ。う。み。す。お。む。お。は。ま。れ。
も。う。氣。世。ふ。う。ア。リ。て。今。心。と。よ。三。角。お。ゆ。う。み。ゆ。く。お。ひ。て。神
慮。の。あ。ぐ。こ。む。う。ま。く。あ。ま。う。者。あ。り。是。お。ト。り。て。三。社。の。祿
神。ハ。多。多。の。世。の。人。心。と。と。あ。く。喪。せ。ん。あ。吉。富。の。人。命。ふ
の。う。う。う。う。な。ま。して。眾。も。り。脣。く。あ。と。を。承。や。う。く。げ。三
社。の。祿。と。の。詫。宣。も。う。ま。と。あ。り。今。も。や。三。吉。富。の。森。
う。う。う。詫。宣。の。宮。そ。あ。り。と。あ。り。右。兩。說。の。中。か。ト。先。說
と。き。れ。ト。と。と。う。う。そ。の。ま。い。つ。う。あ。ま。う。う。う。

二 末世の御詫宣人より事

詫宣

三

余のうらなみ御詫宣とすかひより人王十一代
垂仁天皇のよそくやまと聖皇女御詫宣よりうる
あぐらまうら。天照皇太神やまと娘小御詫宣にて。
のまうら。今より後、神詫とうむこと。時大中臣の祭
おほきうとあり。そのうれやみてのまうら。主祭の神
封御をうり。神詫とうまうら。末代は神詫うりには
十一月新嘗會の夜新嘗會とハ十一月の中の毎日禁中小祭で
天子へも新米とそよ垂仁帝ノ命やわらぎ八千氏
まうらとえやまうらのまうらとす。垂仁二十六年冬
小詔のりしてのまうら。これ今後太神宮詫宣あまよ
あり。がゆめやまうらあまうらふまく也。神代ノ心
うそくして。垂仁天皇のと氣代の人々の心まうら
えきの心やとき時あられはまわら。悪鬼邪神も便
かと得て。人よ詫して誰言をあま。まき今より後。か
ぐ善神れ詫とうら。時よりて。人よ告ふ。から
ありとて。をあく。を驗とて。あく。そんと。げゆ寶
基本紀ふつあく。かく。まく。ハ赤の兩説の中。水池木
かく。文字乃詫とうりと。もうべー

三 上代祿詫宣

上代祿詫宣じんしんの事

人皇十三代。仲哀天皇祿宇。天照太神春日大明神
ニテふとあひて。祿神詫あり。天皇是とらへう

えまむかうにとて崩歿ありこそ。又聖武天王がん
あくまうの叡願アカガタもまととつた。神國の遺風カナフあれ
ありそ。行基菩薩ふ勅アツクす。のみ効驗アツガとうかひなす。
えふ行基大神官ふまくらう。七日の夜。ニテアふ。家
ありて。寶相真如の日輪ヒル。生生死長夜の御ヒメシヤ
本有常住の月輪ヅル。生生死長夜の御ヒメシヤ
詠宣のじひと。基公叡聞アカハジもとまう。がとめり。と
のこまく。句中のこうらまことか神代のじ。天照大神ハ
そこのごのをとろ悪進アキミふ。と。くふとこ。ふるうと。そ
つかふあまのいと。をひく。長夜の御ヒメシヤと。天孫ハ。ハ
重の雲と。とけて。あまづり。なし。時。雲霧クモリあつ。と。そ

時。くもひと。かく。雲霧クモリたちまし。ふと。そ。ア。り。も。き。じ
あう。乃。雲クモと。そ。ら。ふ。あ。も。ア。あ。り。と。そ。ち。く。し。梵僧ボクジ
して。匂面クモイ。佛法。ふ。仰アゲ。せ。ひ。ふ。そ。の。告。つ。び。う。あ。も。と
て。天平十四年十一月。ふ。か。ひ。て。右大臣橘朝臣諸兄。また
あせて。諸兄ハ。山城国井出の寺。と。つ。て。山吹と。伊勢太神宮のらぐ
き。ア。天平十四年十一月十五日の夜。内宮三の御ヒメシヤ。わ。お
まみ。で。紹詠宣ニシ。の。ヒ。お。御ヒメシヤ。天子の。ま。ふ。天
さき。ア。ト。な。ま。ひ。て。ひ。う。と。と。あ。り。て。の。ま。く。し。國。神。國
あり。も。の。も。神。と。や。ま。ぐ。ア。も。れ。た。日。輪。ハ。大。日。易。ア。信
仰。ま。ぎ。と。そ。そ。の。ち。と。と。御。願。寺。と。た。て。ま。す。今
の東大寺。ふ。ま。ま。り。

四 天照太神國土諸來之事

卷之六

三

天の鉢々命 話言、春日大明神。白敞帶、青幣ハ。天乃
うとるの及とねなま。庭火とて見ゆ。ひまひなま。
天照太神ハ。戸をヒリシテ。カタマムミモロを。
あら國の戸隱の明神。らかや。日神也。日神と
りぞき。も。たま。そよと素戔嗚命と。譽と
ミ。足手の仇と切て。日神へ。びふととて。素戔嗚
とばれい。しむ。天下と天照太神へ。ま
ま。地神第二代ハ。日神の御子。正哉吾勝。速日天
穗耳尊の時も。素戔嗚命の御子。大己貴尊。あは天下
とこつたまつ。その御子。事代主命。ふりゆかす。素
戔嗚の子孫。代を國のあアたり。もううろ天の神。高皇
產靈玉尊。經塗主命と。下總香健甕土命と。常河康鴻
乃とのりして。のこまつ。あんじ二神。わまぐりて。わやが下と
あめうと。時ふニ神わまぐり。大己貴命。よじひなま
時。づくと。あくと。のこ。と。二神ハ。天の神。乃つひなり。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
大己貴命。ゆみて。のこまつ。これと。ふ子孫ありて。國キヤウ
ノ。の子孫事代主五十猛。二人。かすり。事代主命。ふくり
二神ス。ト。う。ひ。あ。さ。う。事代主命。ふくり
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
勝尊ハ。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

詩經

1

いにやのゆきのミヒト
歎火瓊杵と尊みづりて天下をどめそちたまふ

古今の作勢國外宮相馬の神方
五 内宮御鎮座由來之事

之内宮、天照太神歟。仁王十一代、毎に天皇御宇、冬十月
甲子の日、か舟、たとひのくも、御園より、伊勢國渡會郡ヨシノハシノマツリ、御
五十鈴河の宮ヤマトミタケノミコト、まづ、みやみやふ、毎仁
天皇の御ひめひらきや、御みまと、御み方カタと、とのりして、おめが下モロ、神明の
御鎮座ミササギ、あらず、わざべ、いたむれ、まどみえ
ち、御みまと、御三種ミツノミの神器ミツノミと、ミツノミと、ミツノミと、
あり、さす、よいせの、四渡會郡ヨシノハシノマツリ、御ミツノミと、
て老翁シラフジ、ゆきあひたまひて、どうひたまよシラフジハシタケノミコト、
神官ミツノミを、興玉ヨシタケの社ミツノミ、だます

やうていはく。やまと見神代より天照太神の勅としけて御鎮
座をすり。二百八万歳のあひども是より奥五十鈴の山
みがありそ。まうびきゆ。是今内宮あり。けがまみの鼻
あがまえぢづき。五尺六寸あり。今は四の神事祭礼乃
時玉の鼻そめくさは鼻のあがま面とこそ。とめくさは
神代の遺風あり。さて皇女うちの御ふくらむよ天のさう
鉢ふ。辛十のまぐらかびそ。まそあり。すみつらけ河と。辛十金うへ
とそすり。そまくさは皇女ハムラリて。だかく勢力かじ。れ
坂よ宮をうりて。朝夕の御供を内官をもてたまふ。ゆき
ありた路。かくとびそ。野の宮アリたまふ。今齋宮。アリ
是あり。四方の宮あり。皇母の後も。代々天子のい。や。一人野官

みうり。太神宮の御つゝあり。一あり。

六 外宮御鎮座ゆるひのす

豊受皇太神宮の御鎮座。人王二十二代雄畧天皇。二十一年冬十月一日。み天照太神やまと。妣。夢中。お告。まく天上。あそび。とく。みあめ。下ゆ。も。皇孫。と。一處。御供。と。うけ。えん。と。三皇女。と。からむ。雄畧天皇。よそ。う。もん。あ。ふ。みの。天皇。の。御夢。も。む。き。り。と。く。外宮。御造宮。わ。り。て。明年。丹波。の。山邊。一宿。山邊。と。今。の。次。よ。り。く。へ。り。う。平尾。小宿。ね。ぐ。山邊。と。一宿。山邊。と。今。の。次。よ。り。く。へ。り。う。平尾。小侯の宮。ま。う。次。よ。り。く。へ。り。う。平尾。小侯の宮。ま。う。同九月十六日。み。山田。み。三月。の。あ。り。ど。お。り。ます。平尾の宮。と。今。の。離宮。と。

く。の。新殿。みうり。と。外宮の本官。天御中主。尊。國常
と。同体異名也。天神代の祖神也。中興治世の御神。ハ。皇孫瓊杵。尊。あり。と。ソ。元。
相殿。みキ。と。て。祖神。と。あ。が。も。あり。な。す。と。そ。あ。ま。の。こ。あ。の。
の。ス。と。あ。ま。の。う。と。ご。の。ミ。と。ね。ぐ。相殿。よ。き。し。く。て。皇孫
を。輔。化。き。よ。き。し。く。人王。十一代。垂仁天皇。内宮御鎮座。八。年。
二十二代。雄略天皇。外宮御鎮座。ま。そ。ハ。そ。の。二。千。四。百。十
八年。こ。な。ま。と。娘。の。皇女。そ。の。あ。の。ご。ひ。生。あ。て。じ。く。お。い。そ。ふ。
ま。う。ま。せ。ー。こ。な。ま。と。娘。の。ま。く。令。ハ。七。百。歳。也。云。云。

七 三社詫宣題号之事

三。と。者。天地。人の。三。才。あり。諸神。の。も。あ。り。と。ソ。天。神。
地。神。人。神。の。三。才。の。神。ハ。外。と。穿。ふ。と。す。ま。う。は。御。詫。

宣。あらゆる物、もの説宣ともいひ。而て三の字は、
神道ふとらゆり文字。王の字のもうともどり魚と
きもの。王の字は三の字ふ。中ふたと魚とうつ。うつハ天
下の王う君、天地分三才としむる方すの平ふ。知あらず
うそ。天下とがまたまうづくがゆく王と貴三とハ三と、あ
とじしそれ魚づくめうら。萬物とさりあまくもか
義あり。道一と生一。一二と生一。三萬物を
生むられ、伊弉諾伊弉冉の二神、國土の三と生たまひて
くらむ。萬物その中ふ生むるもあリ社とややを
くらむ。社ハ土地のつるもあリ。萬物、土地のうへにじて人を
あらはせし。その恩つしがて。あととて。天下のまつりと
ゆ。土地とまつりんこそ。東方の土とさりてわざめをりん。中
方の土とへ。黄あり紙よつり。東方の土と、青紙よつり。南方
の土とへ。赤紙。西の土。白紙。北。黒紙みつりて。一處よ壇とつ
きて。上天子うち。下万民よつて。是とあざめをり。一
方うち。土一寸とよぶ。四方ミニカ。かくせんとうりて。社壇封び
あり。封の字ぬうら。篇は土とくまで。作よすの字と書む
あり。本と見ゆ。そのあり。大唐の法ゆ。一国一縣の官、宦を
うづくもうは。王城の四方半と禁中の土と底その方色の
紙よつり。そへごとく。國司知行の地ふつたりて。御ろとた
て。け土を封じて。祭礼とくふかの間。みあげはまねり。
又御とくふかの間。王侯トうまつて。まつり。王群姓

のゐふ。御らと。シモ。大社と。大社四至。九町より。ヨリ。御のる。御ら
たちと。玉社と。諸侯百姓のたもふ。御らと。たちと。國
社と。諸侯自の。みよ。御らと。うちと。侯社と。大
史以下。群と。あ。社と。たつと。置社と。う。御らよ上
中下あり。上社。九町四方あり。中社。八町四方。下社。四町
あり。詫と。はつと。う。も。と。じ。と。あ。と。ま。と。神
と。今。ト。セ物。よ。附て。と。と。と。と。と。と。と。
あり。や。と。と。と。宣と。ハ。の。づ。と。と。と。神聖物。ふ。う。そ。
あ。と。と。と。と。と。宣旨。宣命。宣下。ハ。ノ。ク。大臣。より。
だ。り。し。と。今。天照皇太神の。詫言と。宣と。ハ。ん。へ。り。
端。ま。る。れ。む。右。詰。ゆ。天子の。宣室と。あ。き。バ。タ。ー。
一

ま。と。き。又。愚案。日本。あ。あ。ア。ド。ベ。ド。め。天照太神。う。り。と
つ。天。惡神の。さ。う。り。に。ド。り。て。づ。わ。ふ。あ。ま。ご。う。ほ。ま。う。と。皇
孫尊。ふ。う。り。て。と。ド。め。國。主。と。う。り。せ。高皇產靈
を。う。め。め。天照太神と。あ。う。し。よ。あ。ま。の。御。蔭。日。の。カ。タ
け。と。か。く。す。レ。く。て。皇孫の。朝庭と。ま。け。た。ま。ハ。宣旨
宣命と。う。り。て。も。う。ア。カ。ク。キ。ト。き。

八 諸神の中ふ三神詫宣の事

今。け。詫宣。諸神の。か。天照太神。八幡大菩薩。春日
大明神の。三神。う。り。こ。け。と。あ。く。あ。く。や。い。く。や。い。ま。く。い。な
く。へ。い。く。今。ア。ド。う。り。こ。け。て。詫宣。あ。く。天照太神。高皇
產靈尊。皇孫。あ。ぐ。と。と。あ。く。ベ。ス。の。う。天照太神。

地神第一だいノリトとみて宗廟の神じみなり。奉まつトハ又社稷の
神じみめて皇孫こうその臣おひ下しの神じみ。又八幡、天神、地神也で。あも
人主じんしゆふ下して。第十五世だいじゅうごせいの神じみあり。つゝくとく。をもる
わくす。是ぜとあくまで、どん。神じみ慮こころうりかかて。あくいへと。
愚意推くわいて。天照太神あまてるハ地神じみれはめ。とくとく。者もの
あり。春日かすがハ社稷やまきの神じみたりとつれ。皇孫輔ふさ佐さの神じみそ
天下あまとせりや。万民まんみんと安寧あんねいあじヒシリあじ神じみハシの
ゆのをよあれあわくす。又八幡やまハまよと人皇じんこうふくす。十五
代だいの應神おうじん天皇てんのううり。あまうま。皇太神宮こうたいじんぐうのひづり。詫
宣あへと守まつとたと上う右うと下し左さとトと。是ぜとく。もようてよあく。ど
八幡やまハ天照太神あまてるの分身ぶんしん。瀬織津姫せおりつひめのそいたそいた。

あふ人皇の世統より。異國うく。日本にほんとせひくよあ
びて人皇十二三世じゅうさんせいのそら。日本にほんとそどふ異國うく。入いらん
事こととと。瀬織津姫せおりつひめがりふあくまき。神功皇后じんこうこうごう
れ腹はらよ腹はらどり。應神おうじん天皇てんのうとしまれ。すひて。日本一統いつとう
ま。手てあらん。日神春日の詫宣あへ。をもん。あん。方かたあらん。八幡御詫宣やまと。あくま
鎮おさめ。も。天あまハ萬物まんぶつの惣身そうしん。万物まんぶつ、天あまの

九 天照皇太神宮

天照あまてると日神也で。天下あまとそしたまよ。平等ひょうご。汚穢うゑ。
不淨ふじよ。のそら。も。どじのになま。亦よ。も。和光同塵わこうどうじん。のあ。白虎通しらとくつう。天あまと。身み。天あまの言ことだら。よ。天あま
鎮おさめ。も。天あまハ萬物まんぶつの惣身そうしん。万物まんぶつ、天あまの

支節あり。眞雅ふゝりく。天の地と云ふ。一億一萬六千
七百八十一里あり。天のあつまと地のあつまとをなす。天ハ南北
相さうあり。と一億三萬三千五十七里二千五百歩あり。東西ハ四
十歩乃至二千步あり。照と明あり。と字訓あり。日神天トモト
か爾から。萬像まうぞうあり。又和訓あそび。と字訓あり。日神天トモト
天萬物と云ひて。万物生成と。万物天てんと云う。地と母めを
又照あらわふ名付なづりあり。孔子の昭あきらめをどりも。日
皇ひめと云い。と云い。と云い。と云い。天子の名なり。又皇たけ君おみこ
とも君くみこあり。正ただり。字訓あり。前漢せんかんみ。又皇たけ君おみこ
すり。と云い。尊そんの稱なま。天子の名なり。又名付なづて皇たけ
と云い。頃あは天てん下げと。なきめ。と云い。帝だいと。と云い。あり。
又皇の字しハ白王しらおうと書かたり。白しらハ明あきらめ。と明王めいおうと以意
乃なり。上代ハ君くみこも君くみこ也よ。天皇たけと書か。末代の今いま
天王てんおうと書かと云い。例たとせハ天てん子こと云い。王臣おみこの神かみ小付こづけ。
尊命そんめいの字しハアリ。太おほと。か耳うと讀よ。き。も。く
か。アリ。わ。な。意い。日神ひじんの國くにと云い。ナマ。アリ。い。ぎ。地
とか。アリ。ジ。の國くにを。ナマ。アリ。ア。レ。シ。ナ。ミ。ア。リ。意い。神かみと
か。ミ。も。ナ。キ。カ。も。讀よ。陽氣ようきの精せいと神かみと。陰氣いんきの精せい
と靈れいと。易えふ。と。陰陽いんよう不測ふそく。神かみと。神かみと。
寶前ぼうぜん次第じだい作法記さくほうき。ひ。と。陰陽いんよう。動靜とうじやうのせ。と
あり。と。動う。進すす。と。陽よう。あり。万物まつぐ。陽よう。ふ。じ。う。と。う。と
き。と。と。生長せいちやう。と。か。と。陰いん。靜しづか。と。退しりぞ。と。勿む。陰いん。よ。

あづまうらうぢいと。がきあぢじと。孟子。下もく。聖も知
龜うらぞ。是と神とよどこ。龜うら意とよどく。神の字
とよく。神の字ハ示篇^{エキヒツ}ト申と書く。人々せうぢま西御
をとて。神より。時ハ申の字。暗よアセテ。とあく
たまひハ示の字あり

十 天照太神御詫宣言

謀計と。ぐらりと。かづくと讀む。下地の我意
は。がりうて。うとうよ。まことのありをかで。人と大
きと。のあふ倭人^{倭人}がくし毫^{カシ}。かづくと。たと六
十あわと。ハよび。又十二十三。どよ。かづくと。ゆうり。
くべくして。の目と。まて。やうりうて。あきらへすと。ま
時ハ眼前ふ利^リとめく。家も富^{トモ}く。身もあつたなまく。
まあこなまの利潤^リ有^リ。あれれ。なれん。當座^{トモ}ねだ。本
心の時^{トモ}。かみのと。の見え^{サク}るのと。うみあ。じけ心のみ
きの方へ。うりて。罰^トとあつて。のやがの心も。通力と
うりて。あらうと。運心神通と。うりて。あり。人も夢中ふ
千里の外ふゆきて。あてき友^トもあらず。まじで今や
までも。がたりき。うみて。暫^ト時^ト。千里のりと。うりて。ま
う。是^トも人の上ふくさく。運心神通と。うりて。のうすふ
き。うりて。あらうと。明神の神通と。うりて。中の目^{トモ}りく。
奇瑞^{トモ}どのあは。神明の神通と。うりて。人ふ通力神通
あは。は。人をあふ。利倍^{リダ}と。うりて。じと。あ。非^ト。

たゞ八十歳は貴重。一物と六十錢十二錢。ト。人よりとようま。人をいぢりたゞくともあらず。人もその分へゆきと二十錢の物と二十錢よしれ。いつくかゆ人様よ見とありて。大より。あらじ心神。み人よ削て。あらじ罰あり。神罰。神討。冥罰。人罰あり。神罰。やりのふあらまつてあら。冥罰。ひきぬきてあら。人罰。ひあらまつてあら。五刑。すど是こづえんでもつまじ愈れ。神明。六。懲して。天地の神とまこと。別して。八。よそくへるのせうらぎ。西嶽の神と神明も。又神明と。八。明神と。よそくにき異あり。明神。六。元神。ひりと爲り。けて。塵ふき。ド。ころりて。かうみ。今つらふあら。も。万民と。たまけたまふと。明神と。八。明。八。日月。日月の明。神の上。あらわい。づと明神と。八。日月の明。神。半小明て。さうかわら。神明。神明。神明。君主。日月乃明と。下。明神。八。日月の明と。神のうちふくらうゆ。うり天下の君臣も。すぐせじ。君主。うり。いそだ。うそく。もうう。うそく。天下の人民よくぞり。やうか。正直。と。へ。と。あらわい。と。讀む。末代よ。人の心。わら。うそく。うそく。人。と。ひ。み。あ。じ。は。見。ま。か。ら。不。正。直。の。心。は。うそく。西施。自。よ。う。ま。ん。東施。う。金。を。あ。ま。ん。や。強。あ。ま。ん。そ。うそく。うそく。あ。ま。ん。や。善。人。惡。人。よ。キ。ド。り。う。時。當。座。ハ。右。小。米。お。ド。つ。あ。ま。ん。宋。よ。入。あ。ま。ん。う。時。當。座。ハ。右。陽報。う。ま。ん。の。よ。い。悪。人。も。正。神。あ。ま。ん。時。車。今。す。り。と。知。

あくアミララづ。者ニ是とつかふ。日月のあれ。こくらり。ハ
ソモ一旦と二字。もがく。がくと。讀。依怙。と。まち。うる
と。もむ。毛詩。み。又。み。り。母。うり。と。よ。語。あり。今。れ。の。正。直。
あり。人。ふ。今。う。と。三。本。を。ま。そ。だ。う。り。ち。う。と。り。う。ふ
す。た。と。ハ。又。母。と。り。し。き。よ。三。引。す。の。東。西。ふ。き。ゆ。よ。と。じ。と
ゆ。望。風。の。や。か。ふ。次。と。り。し。き。よ。が。ど。く。ち。き。ど。も。づ。か。ふ。又。母。ふ
さ。ぐ。う。含。て。だ。ち。ま。ら。ふ。日。月。の。ひ。う。り。と。カ。ク。う。う。が。ど。く。今。の。正。
直。者。も。今。よ。う。と。こ。う。け。う。れ。と。一。旦。夜。陰。ふ。り。り。と。と。先。日。月
あ。け。を。ま。く。と。づ。わ。よ。善。人。と。も。く。ゆ。き。の。と。ま。の。是。日。月
神。明。の。德。と。も。も。り。と。

十一 八幡大菩薩之事

八幡、父、皇十三代、仲哀天皇の皇子。九列筑前國三笠
の郡うちこの里也。ひたゞじすりあり。母、久人王十四代、びんく
をきうこうく。仲哀の御宇まことか。薩摩國。天子ふちくがと
天皇あそとあそびて。たまゝ時。天照太神。春日大明神。御
詫宣ごせんして。のこぬく。しきが國くにハ神國かみのくに。たとへせらもととも。づ
わふかく。まはり。まはりよりみに。寶たからの国くにそあり。は則新
羅百國はりゆつし
高麗たかくい三兒さんごと對治たいぢあるべく。云々時ときよ天皇あその國くに。づくも
たまど。海上うみ小兵船こひょうせんをたぐ。より。づわふ長門ながと國くに。づくも
八月十五日はちがつじゅうごにちふ崩御くずれごちくまよとく。或說おもてよ神詫かみのくにとむらへたまひどき
神罰かみばつ。當て崩御くずれご。そのとれ。仲哀なかわいのとき。神功皇后じんぐうこうごう。龍馬
さうとく。詫くわちく。そのとれ。仲哀なかわいのとき。神功皇后じんぐうこうごう。龍馬
ひのうて。こく。飛ひと。ぞぎの國くにけだのれ。やとり。ふふ

アラルトナヒ。ミツキモカギ。カウリナム時。ロラヨハの白幡と
カゲテ。アマモグリナム。今秋山ふ四天王のまひとソハ是モ
カヘの幡の上ふ小戸の瀬より。アラミシマス。三神度
ナシム。三神と表箇男命、中箇男命、新羅百濟高麗の三韓奉
神。シカクカミタマシマス。トヒ。アラシカタニトミ。ミツアラ
シマス。時。龍宮界トヒ。千珠蒲珠とリ。二の玉と。さ
カゲたを。千珠とリ。玉ハ歎方塙のいとよわる所
ミタキハ。ミナフロ。塙シラテ。水ふやぎ。自由よもやう
く。千珠とリ。玉。ミナフロ。塙よあとのとうふか
カヘ。ミズハ。カウリヒ。トドケ。アラシカタニトミ。ミツアラ
ミレハ。自在。アラシ。又ミタキ。方。ス。海。ト。ミアハ
ナシム。今世の黄石公が。トモトヒ。時。皇后。カタシ
神功皇后。王子。カタシ。カタシ。皇后一巻の軍書と。ミラ
ナシム。三畳と。よも。カタシ。ヒ。時。皇后。シカ。ト。ミラ
カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。
時のもの。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。
神功皇后。王子。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。
右。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。
皇后。筑前。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。
カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。カタシ。
時。一巻の書と。カタシ。書。カタシ。云。又カタシ。金。カタシ。の時。カ
番。カタシ。の上。カタシ。カタシ。八幡と名づけ。カタシ。カタシ。

日本よりせんふあまより。ノアヌー。リ毎年
小日本へもとわとをもす。八艘よそぞまりく。人王六十
代の刀と醍醐天皇のらもまで少くもとわと。

十二 山城國とてのたと山勸請のす

全立十六代。清和天王の御宇。大安寺の行教和尚。有觀
元年の夏九旬のあひ。うそくやふ奈落ありて。畫大乗
經とぞ。あし。和ハ秘密神咒とこそ。法施とぞ。す。
九旬生でふ満月時。靈夢を告あくたり。八幡さんと。
告てのまく。ひよく法味とぞ。師とぞ。ふり
ひのこらふもとぞ。今師玉城ふかくら。ふり又
あくびてゆき。玉城のこじらよだんと。行教もこじら
て山崎。とうく。東南の方。たと山とてのうと。アム
光明あり。けひとととて。朝和帝。うそくおはまくら。橋の
朝臣の工部。ふ勅して。うそく神社のとく。ふ新殿とづり
て。うそく。かと云。弘法大師も。余教ありて。靈験と
かしり。入唐求法の大願も。うそく。うそく。八幡
八中ども。祈願の返答と社の内うちあり。あれハ度
天子より勅とぞ。たまして。もと。のうそく。うそく。もふ
うそく。ふと。うそく。うそく。返答とぞ。うそく。かく。菩薩とは
梵語の略。うそく。づぐさふ。菩提薩埵とつぞ。ばかく。覺そ。
智そく。又薩埵ふ。四の薩埵。一。愚意薩埵。是
三界の。がく。うそく。意。一切の人。ふ。智。もと。うそく。は

るけもえ。やつらきうらは。おもうをひく。ノーバ。火とあても
しく入がれ。二よハ識薩埵。是ハ二乗とす。三よハ金薩埵
是ハ菩薩とす。四よハ智薩埵。是ハ佛とす。くわうき
意ハ明師ふうぢのとくもんのうり

十三 八幡御詫言

雖食鐵丸と、食物は正食と邪食と二あり。他人より
食物と乞て食ひうる。武士の武威も忠心もあつて、家主
にて君と争つて、智行俸禄としけの物とぞ。道を
うてじきがりうわうやうと。邪食としけ食物と交え
うち、鐵丸と食せよとあり。正食ハ道ふあつてうそと云
う。無道うて富ハ大藏のまゝうがへ。是と心織の合
ひ。鐵丸は佛家ふうじくす。義。今禪とぞいふ。
有。とく。又水うべても盜泉とのまざとあり。その名と
もか處不可うれぐ。又瓊瑤。とく塵とぞりう。くちだらあ
うとばうす。磁石。とくうごと吸う。またう針と
吸うとぞう。うろちにうのまく。とくうき物と。又、
かうて。うの身の害ふす。かうせん。物と。又、
焰と。焰石。とく。あじ。雖座。銅
あじや。とく。銅盤のゆげ。とく。焼石のうへ。たま。うれと
貪欲ふ。き人の座位不同。座とあひゆうきと。貪欲
と。口があらう。鼻ふま。耳にま。目に。足に。身ふま。
うかま。今く。うくて。ふうがみの。されし。欲めり

とて。制あらへし。まことどもがく。時ハ多き也。本心とぞりま
え。心と御事。欲らき事なり。善は。と古語あり。又
熟考。栗木のひふをもじ。べくすすとあり。ばくや心あく人
の心。れぞうだらふほず。どうりす。うちをそつてり。じきみのうり

十四 春日大明神之事

春日大明神。あまのややのアヘと。大中西氏の祖神。
そぐみのアヘと。日向国高千穂の三神。あまぐりたま
時。天の神。うら。もと。小三神。とそ。まひて。天津日嗣
國津日嗣。とまじしやなまく。そのどん春日ハ扶翼大臣
の中。大政宦。ふあらう。地神の。じめ。ト。ハ四治
ス。アラホ。と。三神。うら。たひ。けたま。すよ。ト。と。あまのや
め。アヘと。皇孫。のまうり。と。あがり。ア民。と。まく。あま。す。
余神。ふもと。ま。是。よ。ひ。春日大明神。と。名付。者。之
日天ハ四時。よ。ひ。物。と。そ。す。や。秋。の。日。陰。分。ふ。ま。け
て。日。あ。て。うち。物。万。物。と。そ。れ。を。が。し。冬。の。日。陰。分。
き。ま。わ。時。わ。て。万。物。生。一。夏。の。日。陽。分。う。り。と。そ
又。陽。の。き。ま。わ。時。う。ん。万。物。又。育。む。か。の。う。き。ま。春
の。日。寒。あ。い。も。熟。あ。い。も。是。ま。ま。ら。中。分。の。時。節。う。ん
萬。物。や。ぐ。く。生。と。国家。万。黎。う。よ。あ。ん。わ。ん。の。時。く。こと
と。春。日。と。号。ま。か。の。う。り。明。神。の。う。り。以。前。ま。れ。に。家
き。

十五 大和國ミタキ山勧請の事

皇孫尊あまくさりたまひて。日本づか。がまきりそ

ど。あはし。東國の神。あくたけりて。かわゆりて。寝と
きて。まのこ處の事と。健甕土命。あくせよと。三神九
所。東國せひのたちふ下向すもひき。うゑのミトハ。下
総國をうへありふすアリ。國祚と。うちなまく。今。查取明神とよ
く。す。齋主命とよ
く。あめの御の事と。健甕土命の二神。常陸國の事と
ふすアリ。あくま神。うちと。そぞう一統。まよまひて。うべ天下
の。ん。せの。たら。三神。すゞ。東國。と。まよまひ。そ。の。後。見
き。め。勸請。人王四十八代。稱德天王。の。御宇。神護景雲
二年。す。ゆ。麻。の。リ。柳。の。枝。と。鞭。今。の。春日。守。飛
入。ま。い。帝都。と。あ。じ。た。ま。し。ま。い。春日御詠詩。の。ゆ。
ア。モ。ア。リ。セ。キ。の。リ。春。日。を。か。ミ。コ。の。山。よ。も。く。の。や。

詠。なま。ア。是。よ。と。而。麻。と。と。而。使。者。と。と。ひ。の。宮
ハ。ま。大。明。神。二。の。宮。ハ。か。う。り。大。明。神。三。の。宮。ハ。春。日。大
神。四。の。宮。ハ。姫。神。う。り。天。照。太。神。五。の。後。人王五十九代。根武天王の
時。も。や。と。山。別。平。安。城。へ。う。な。ま。時。大。原。へ。春。日。と。え
み。や。又。大。原。より。吉。田。へ。も。勸。請。せ。ひ。う。り。

十六 春日御詠言

雖。曳。千。日。注。連。と。け。神。詠。の。え。ら。ん。神。よ。祈。誓。と。掛
て。宮。と。づ。く。り。石。と。た。れ。御。注。連。と。引。あ。ゆ。と。と。う。ぶ。事。
千。日。万。日。か。お。よ。ぐ。と。り。え。う。こ。ち。の。詠。び。と。と。り。て。う。く。
そ。の。人の。家。よ。は。ア。リ。な。ま。う。と。注。連。と。ひ。も。繩。の。ゆ。う。
ま。も。注。連。繩。の。う。り。天。照。太。神。天。の。い。川。へ。も。う。め。う。

なまへ附。思萬のくわりとあ。太神、いつたはせじり
さやまの時。年力雄命。ソノモナリて。戸をもじて。繩と引
張て。是より、戸へすひとと。繩と神吉日六
端出之繩と申。是もむらし。あうこのゆき神と引く。そ
詠ひを満なしと申ゆの繩。千日か日。写
御注連と引く。御見の人の家ふ。くふキ。と
き。御見とふくみぬよ月つと讀う。せうじきの人に神
きせの。もよづる一日の注連とを。詠ひとく
不正直の人見て。みゆきとみて。神ふ詠ひとく
ふ。百日や。満せど。千日や。がいとく。みゆき。とく。
き。もうと。く。神とく。みゆき。とく。の
う。首もあらう。號あり。つぶ桃杷もさき。まち大奇で。食
み。處も。さへえ。やとく。實じう威風ういそ。神ふ
う事。百日や。満せど。千日や。みよど。うでの靈神と
わざきり。う。あり。是もむらし。不正直のうりと桃杷
その詠ひとす。まがふととく。のふ。うん。石。めし
て。金とく。う。せん。せん。あらひ。貪欲のたら。あらひ。噴畫と
き。う。前よ。う。のう。あらひ。佛家といふ。飛
見だ。う。野中に牛あり。草とく。う。まや。ふ。ひりと
も。天より。う。とむ。う。今。牛はまのとと。草とく
う。う。う。う。う。何が。あらひ。や。と。め。う。う。
草とく。牛。う。小天上と。う。是とく。や。う。う。

うて。いへは是承見の今より。野半の天主。智人の。と
て。衣ありしが。風ふやしまえ。牛のあつまつて縁。が
人縁うて。あらんや。かく多くの人。も是承見うち。
す。と。三の御事と。しか。孔子子の要言あり
雖爲重服。深厚と。重服と。父母の喪衣あり。衣と。き
絶えまいかゆ。重服と。又。藤衣と。縞衣と。云
唐主は。もろうの太宗皇帝。より。ドリ。神
行觸來觸。と。モテ。身。けり。まこと。テ。ひ。たまを
シ。と。む。ひ。う。き。人の家。ハ。重服の。だり。まうり。と。歎向
ゆ。ぐ。と。き。慈。と。ハ。う。も。ひ。と。う。じ。と。讀。一。切。の。を
う。れ。赤。子。を。う。く。ひ。と。う。か。と。よ。う。り。悲。と。う。
レ。と。う。レ。一切。の。人。の。う。よ。あ。レ。し。り。あ。き。ハ。重。ふ。そ。う。く。是
と。あ。え。そ。コ。う。も。ち。う。そ。悲。と。重。ふ。り。の。あ。き。ハ。夜。と。首。ふ
つ。そ。も。是。を。や。う。と。サ。よ。う。も。と。慈。悲。と。う。う。り。う。だ。と
く。の。室。方。や。へ。八。百。萬。の。神。ゆ。こ。か。重。ふ。う。き。ハ。そ
と。お。重。服。の。う。と。モ。テ。ア。た。ま。ハ。う。び。お。う。ら。ふ。う。ご
と。お。ま。う。り。な。ま。う。と。の。御。誅。宣。う。り。ま。ト。ま。わ。り。ハ
と。あ。ま。う。り。あ。う。三。社。の。御。祭。り。あ。り

明曆三戌年天仲秋下旬令門板者也

松書市扇兵衛用板

田
主
持
事
業